

令和6年度

「運営に関する計画」 最終評価

◎総括シート・目標別シートとも「目標」「取り組み内容」「指標」欄の赤字は、今年度新たに設定、または文言や数値を修正した部分。

大阪市立大宮西小学校

令和7年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 4 年 3 月改定の市中期目標達成に向けた昨年度の目標は、「安心・安全な教育」では全般的にわずかながら未達成、「学力・体力」ではおむね達成、「教育環境」では全体として上回って達成の状況だった。ただし、学年別、同一集団による経年変化等を分析すると今年度もほとんど同水準で改善をめざす必要がある。特に「教育環境」面では、昨年度配置されて大幅な改善に寄与したワークライフバランス支援員の配置停止、スクールサポートスタッフも 4 月 12 日現在配置されておらず、厳しい状況である。また、中期目標達成のため、もう一段ギアを上げて取り組むべき項目も多く、教職員が一層の共通認識に基づいた実践を進める必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 1%以下とする。
- 令和 7 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を 60%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合をどの学年も 35%以上、平均 40%以上にする。
- 令和 7 年度小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を、100 以上とする。
- 令和 7 年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合をどの学年も 80%以上、平均 85%以上にする。
- 令和 7 年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。**
- 令和 7 年度小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 3 年 50%以上、4 年 70%以上、5 年 90%以上、6 年 100%とする。
- 令和 7 年度までに「ゆとりの日」を週に 1 回設定・実施し、順守する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 88%以上にする。

- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(1.7%)より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童(2人)の改善の割合を50%以上とする。
- ・年度末の児童アンケート「学級や学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定回答の割合を93%以上にする。
- ・年度末の児童アンケート「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目について、肯定回答の割合を88%以上とする。
- ・年度末の児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」の項目についての肯定回答の割合と、保護者向けの対応項目でどちらも95%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合をどの学年も40%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上する。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合をどの学年も80%以上とする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度(今年度4年19.5%、5年21.1%、6年7.7%)より1ポイント減少させる。
- ・小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」に対して、否定的回答をする児童の割合を45%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・運動会当日などICT活用が適さない日を除く授業日において、8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を3年50%以上、4年70%以上、5年90%以上、6年95%とする。
- ・「ゆとりの日」を週に1回設定・実施し、順守する。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する最も肯定的な回答の割合は86.7%で、年度目標の88%、中期目標の90%とともにわずかながら達成できなかったものの、R5年度の80.7%を上回る結果となった。概ね目標通りのレベルと言える。
- ・年度末の校内調査における不登校児童の在籍比率は0.9%で、前年度(1.7%)より改善した。

- ・年度末の校内調査における不登校児童は前年度の2人のうち1名は改善して不登校ではなくなった。もう1名も欠席が多いものの出席率は大幅に改善した。前年度からの不登校児童の改善率は100%、解消率は50%である。しかし新たに不登校となった児童もいるため、全体としては改善とは言えない側面もある。
- ・年度末の児童アンケート「学級や学校のきまりを守っていますか」の肯定的回答割合は89.1%で、目標の93%以上には達しなかった。
- ・年度末の児童アンケート「自分には、よいところがあると思いますか。」の肯定的回答割合は83.2%で、目標値(88%以上)に至らなかった。
- ・年度末アンケート「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答は、児童で93.6%、保護者の対応項目で94.5%であり、どちらもわずかながら目標値(95%)には届かなかつたものの、概ね目標を達成する水準と考える。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の最も肯定的な回答の児童割合を40%以上にできたのは6年(43.6%)だけであった。肯定的回答は3年62.5%、4年71.0%、5年72.5%、6年87.2%で、日常の授業で伝え合う活動を取り入れている効果は上がっているものと捉えているが、この項目単独では目標どおりの達成とはならなかつた。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比の同一母集団経年比較では、

国語：4年101.7→99.0 5年98.7→96.2 6年103.0→99.2 などの集団も減少した。

算数：4年101.0→97.8 5年98.0→98.5 6年101.6→98.8 と5年生のみ0.5ポイント向上した。

目標どおりの達成とはならなかつた。

- ・小学校学力経年調査「理科の勉強は好きですか」の肯定的回答割合は、全体で85.9%と目標(85%)を達成した。
- ・小学校学力経年調査「外国語（英語）の勉強は好きですか」の肯定的回答割合は、3年87.6%、4年73.6%、5年90%、6年89.8%で、4年生以外は目標(80%以上)を上回る達成度であった。
- ・小学校学力経年調査「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の最肯定回答割合は、73.1%で目標(70%以上)を達成した。
- ・小学校学力経年調査の正答率が市平均の7割に満たない児童の割合は、4年20%、5年25%、6年15.8%と昨年度よりそれぞれ増加しており、目標(今年度4年19.5%、5年21.1%、6年7.7%より1ポイント減少させる)は達成できなかつた。
- ・小学校学力経年調査「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」の否定的回答割合は50.5%で、目標(45%以上)を十分に達成した。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・1年生にも端末が配布された7月以降では、8割以上が学習端末を使用した日は運動会・校外学習等の学年や学校行事で活用に適さない日を含めても80%を超えており、目標を大幅に上回った。
- ・小学校学力経年調査「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができます

すか」の肯定的回答割合は、3年96.9%、4年89.5%、5年90.5%、6年94.9%となり、目標値の3年50%以上、4年70%以上、5年90%以上、6年95%に対し、6年が誤差レベルの0.1ポイント下回った以外は上回った。特に3・4年は大幅に目標を上回って達成した、
・週1回ゆとりの日を設定した。設定日には17時30分までに、ほぼ全教職員が退勤時間を順守することが、目標どおり達成できた。

以上のように目標ごとの達成度にはばらつきがあるが、本市教育振興基本計画に沿って本校のめざす教育活動は、概ね計画どおり進めてきた。今後は教員の意識改革を一層進め、「概ね」ではなく計画を進め、すべて目標どおり、または目標を上回っての達成をめざす。

(様式2)

大阪市立大宮西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 88%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(1.7%)より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童(2人)の改善の割合を 50%以上とする。 ・年度末の児童アンケート「学級や学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定回答の割合を 93%以上にする。 ・年度末の児童アンケート「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目について、肯定回答の割合を 88%以上とする。 ・年度末の児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定回答の割合と、保護者向けの対応項目でどちらも 95%以上とする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】【基本的な方向2 豊かな心の育成】【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>栽培・観察活動やゲストティーチャーによる授業等の校内体験学習、大阪の特色ある施設利用等による校外体験学習等を充実させ、主体的に学び続ける充実感を持たせる。また、キャリアパスポート等でこれらの取組を記録し、将来的に活用できる素地を構築する。</p>	B
<p>指標</p> <p>①年度末の児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定回答の割合と、保護者向けの対応項目でどちらも 95%以上とする。</p> <p>②キャリアパスポートに全学年とも年間に 5枚ずつ記録を残す。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>教科で友達の意見を認め合ったり、学級活動で友だちの良さを認め気持ちを伝え合う学習を毎学期行ったりするなど、さまざまな教育活動を通して各自が達成感を味わい、自尊感情・自己肯定感が高まるように指導する。</p>	C
<p>指標</p> <p>年度末の児童アンケート「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目について、肯定回答の割合を 88%以上とする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>教科書教材による道徳授業を一層深めていく。また、「決まりを守ることについて全教員が統一した指導を行うとともに教員自らも率先して実践する。さらに、児童の実態を把握し、「みんなが決まりや規則を守ることで、みんなが安心して学べる楽しい学校となる」ことが実感できる集団育成を行う。</p>	C
<p>指標</p>	

<p>① 年度末の児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定回答の割合を 93%以上にする。</p> <p>② 全教員が年度末アンケートで「児童が守るべきルールや、ホームページに各学年の話題を上げる回数など本校教員としてのルールを順守している」と肯定的回答をする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>挨拶や丁寧な言葉遣いができ、望ましい規範意識・礼儀を身に付ける意識を持つようにその意義や効用を理解させるとともに、教職員自身も積極的に実践して、日常の教育活動を進める。</p>	B
<p>指標</p> <p>① 年度末の児童アンケート「自分から進んでいさつをしている」の肯定回答の割合を 89.0%以上にする。</p> <p>② 全教員が年度末アンケートで「挨拶や丁寧な言葉遣いについて積極的に実践している」と肯定的回答をする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>上記取組内容①～④についての情報共有や、児童に関する各校内委員会の月 1 回以上実施等によって、教職員の共通理解促進に努め、児童への適切な支援、保護者対応、関係諸機関との連携を一層強めることで、個に応じた支援、いじめ・不登校対応の一層の充実を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 88%以上にする。</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(1.7%)より減少させる。</p> <p>③年度末の校内調査において、前年度不登校児童(2人)の改善の割合 50%以上とする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の項目では、学年により差があり、全体では 93.5%、保護者の対応項目で 94.5%と、目標の 95%には若干届かなかったものの、中間よりも上昇し、経年調査の類似項目でも 91.8%と、高水準を保っている。校内体験学習や校外体験学習をできる限り取り入れ、充実した学びの場を提供したことなどで教育効果は上がっており、概ね達成できたととらえられる。 ・キャリアパスポートへの記載は、ほとんどの学年が既にできている。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな教育活動を通して自尊感情や自己肯定感が高まるよう指導はしてきたが、児童アンケートでは、学年によりかなり差があり、全体の肯定的回答が 83.2%なので、目標の 88%には至らなかった。 <p>取組内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学級で「きまりを守ることについて、指導を行ったり、児童朝会で常に呼びかけをしたりしてきたが、全教員が統一した指導をしきれていなかった。また、ホームページに話題を上げる回数も、なかなか上げきれなかった。児童アンケートも、目標の肯定回答 93%に対し、89.1%と、目標値に至らなかった ・全教員向け年度末アンケートの「児童が守るべきルールや、ホームページに各学年の話題を上げる回数など本校教員としてのルールを順守している」に対し、3名が「どちらかといえばできなかった」と回答し、目標を達成できなかった。 <p>取組内容④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かなり個人差があった。日頃から呼びかけてはいるが、「あいさつ運動」の時だけになりがちだ 	

った。全教員が、「挨拶や丁寧な言葉遣いについて積極的に実践する」ことも、なかなかしきれなかつた。児童アンケートでは、肯定回答が 88.3%だったので、目標の 89%にわずかに及ばなかつた。

- ・全教員向け年度末アンケートの「挨拶や丁寧な言葉遣いについて積極的に実践している」に対し、1名が「どちらかといえばできなかつた」としていた。

取組内容⑤

- ・月に1回、生活指導連絡会を行い、教職員の情報共有や共通理解を行ってきた。児童への指導もきちんとして、保護者との連携にも努めた。また、いじめアンケートを実施したり、怪しい行動があつたりすればすぐに対応してきた。結果、経年調査での「いじめ」排除への最肯定回答の割合は 86.7%で年度目標をわずかに下回つたが、R5 年度の 80.7%より上昇しており、概ね達成の水準と言える。
- ・不登校児童対策については、ミマモルメでのメールや、家庭訪問などに取り組み、結果、年度末の校内調査における不登校児童は前年度の2人のうち1名は改善して不登校ではなくなつた。さらに1名も欠席日数はまだ多いものの、出席率は前年度より大幅に改善した。前年度からの不登校児童の改善率は 100%と言える。しかし別の1名が新たに不登校となつたため、全体としては改善とは言えない側面もある。

次年度への改善点

取組内容①

キャリアパスポートへの記載は、行事にこだわらず、幅を広げて記入できるようにする。学校に行くのが楽しい！」と思えるような活動や取り組みを積極的にする。

取組内容②

いろいろな活動や場を提供し、児童が達成感を味わつたり、自尊感情が高まつたりできるようにする。

取組内容③

事あるごとに声掛けをする。ホームページに上げる回数については、要検討の声もあるが、まずは、目標を達成できていない学年がなくなることを目指す。

取組内容④

折を見てではなく、常々声掛けをする。

取組内容⑤

「いじめ」も不登校も関係児童への丁寧な対応をさらに強化するとともに、保護者や関係機関との連携を一層迅速かつ密にし、早期発見・早期解決をめざす。

人権教育や学級活動等で「いじめ」防止に関する学習について、計画通り進めるほか、実情に応じた学習も柔軟に取り入れていく。

(様式2)

大阪市立大宮西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を どの学年も40%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を どの学年も80%以上する。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。 ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度(今年度の 4年19.5%、5年21.1%、6年7.7%)より1ポイント減少させる。 ・小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」に対して、否定的回答をする児童の割合を 45%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向4、だれ一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎的な学力の土台となる認知機能を養うICTアプリを通年の帯学習（漢字・計算・読解・観察等）に加えて計画的に実施することを通して、自主学習習慣の確立の手立てや基礎的な学力の定着を図る。また、これまでの漢字検定を生かした漢字学習を工夫し、学ぶ意欲の向上につなげる。</p>	B
<p>指標</p> <p>①小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団で経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。</p> <p>②小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p>	B
<p>取組内容② 【基本的な方向4、だれ一人取り残さない学力の向上】</p> <p>話し合い活動等を通して、自ら課題を設定して「考える力」「伝え合う力」を育む。更に、主体的に書くことへつなげる教育活動を各教科で行い、全教員（他教科専科教員を除く）が国語科での研究授業を実施する。</p>	A

<p>指標</p> <p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上 にする。</p> <p>②年度末の児童アンケート「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」に対して、否定的回答をする児童の割合を 45%以上 にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 4、だれ一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学校司書との連携や蔵書等管理パソコンの活用等で学校図書館の利用を充実させるとともに、学級での図書指導、読書週間、区図書館の集団貸出し制度を効果的に活用し、読書意欲を高める。</p>	A
<p>指標</p> <p>①読書カードを活用し、読書量を高学年 20 冊、低学年 30 冊以上とする。</p> <p>②年度末の児童アンケート「本を読むことは楽しい」の肯定回答の割合を低学年で 80%以上、高学年で 70%以上 にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 4、だれ一人取り残さない学力の向上】</p> <p>新たに配置された理科専科教員を中心に、実験・観察など体験的学習とグループ学習などによる考察を数多く取り入れた理科授業を構築し、児童の理科学習意欲を向上させる。</p>	B
<p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上 にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 4、だれ一人取り残さない学力の向上】</p> <p>通年での英語モジュール学習の実施や、小中兼務英語科教員・C-Net 講師の指導技術等を全教員が吸収することで、幅広い英語学習・英語活動に役立て、児童の英語学習意欲を向上させる。</p>	A
<p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を どの学年も 80%以上 にする。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向 4、だれ一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各学年で家庭学習材の継続的な提供と提出状況の把握を通して家庭学習の習慣化を図ったり、自主学習の定着していない児童に放課後学習会への参加を継続的に促したりするとともに、自分なりの作品や学習成果をクラス等で発表や交流ができる場を設けていく。</p>	
<p>指標</p> <p>① 家庭学習の定着を図るために必要な家庭学習材を提供し、提出率を 95%以上 にする。</p> <p>② 全教員が年度末アンケートで「授業中に困り感のある児童や自主学習の定着していない児童に放課後学習会への参加を継続的に促している」と肯定的回答をする。</p> <p>③ 自分なりの作品や学習成果を発表や交流できる機会を工夫し、年間で1人当たり3回以上、うち低学年で1回以上、中・高学年で2回以上は「書くこと」と関連づいた機会を設ける。</p>	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>体育科校内実技研修会の開催などを通し、教員全体の体育指導力を向上させるとともに、全校児童の体力・運動能力の状況を把握し、適切な運動の機会を設定してコロナ以前の運動量を確保する。</p>	A

<p>指標</p> <p>①体育実技研修会を年2回、計画的に実施する。</p> <p>②小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上 にする。</p>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>保健学習、保健指導を計画的に実施し、健康な生活を送る力を養う。</p>	
<p>指標</p> <p>保健指導アンケートで「低学年は午後9時、高学年は午後10時までに寝るようにしている」の肯定的回答を1学期と比較して3学期には5ポイント向上させる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は3年37.5%、4年18.4%、5年25%、6年28.2%で目標には届かなかった。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させることができた。目標では0.5ポイント向上を目標とした。 ・国語：4年101.7→99.0 5年98.7→96.2 6年103.0→99.2と減少した。 ・算数：4年101.0→97.8 5年98.0→98.5 6年101.6→98.8と5年生のみ0.5ポイント向上した。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年93.8%、4年89.5%、5年80.0%、6年82.0%で、全体では85.9%となり、目標を達成した。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年87.6%、4年73.6%、5年90%、6年89.8%で、4年生以外は目標を達成した。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は、3年90.6%、4年55.3%、5年70%、6年82.1%で、全体では73.1%となり、目標を達成した。 ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度(今年度の4年19.5%、5年21.1%、6年7.7%)より1ポイント減少させる目標設定であったが、4年20%、5年25%、6年15.8%とそれぞれ増加しており、目標は達成できなかった。 ・小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」に対して、否定的回答をする児童の割合は、3年47.1%、4年57.9%、5年72.5%、6年56.4%と全学年大きく上回った。 	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTアプリを学習の定着に使うことで、児童が楽しんで学習に取り組めていた。また、苦手な単元の可視化もでき、懇談会資料としても役立った。 ・漢字学習や授業等でのデジタルドリルの活用は進めているが、デジタルドリルを使った自主学習を行うには、児童の一人一台端末の持ち帰りがなければ担保しづらいとの声もある。 ・指標については、上述のように2項目とも全体としては目標値に届かなかったものの、概ね達成 	

の水準となっており、「B」とした。

取組内容②

- ・書く力の個人差が大きい。
- ・研究授業と一人一授業を計画どおり実施することができた。
- ・主題に沿って研究を行うことができた。
- ・小学校学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の最も肯定的な回答の割合は目標を下回ったが、肯定的回答は3年62.5%、4年71.0%、5年72.5%、6年87.2%となった。また、もう一つの指標である年度末の児童アンケート「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」の否定的回答の割合は目標値を大幅に上回っている。よって、取組内容②の指標の達成状況としては「B」とした。

取組内容③

- ・読書の量はこれまで通り充実しているが、読書の質の問題がある。
- ・図書カードを活用したり、読めた本の数のシールを貼ったりすることで読書の意欲を高め、高学年25冊、低学年30冊と、目標冊数(高学年20冊、低学年30冊以上)を達成することができた。
- ・年度末の児童アンケート「本を読むことは楽しい」の肯定回答は低学年で80.0~90.5%、高学年で70.7~77.5%となっており、目標(低学年80%以上、高学年70%以上)を達成することができた。
- ・集団貸し出しを依頼していただけたのでたくさんの本に出会うことができた。

取組内容④

- ・1月からの理科専科教員の代替講師が配置されず、2学期は学級担任が授業を行い、3学期は時間講師の配置を活用するとともに、サポート学級担当の組み換えも行って可能な限り専科授業を行ったが、一部の学年では担任の授業も継続となった。
- ・指標については「理科の勉強が好き」との回答率は目標を上回った。

取組内容⑤

- ・英語に親しむ児童が多くなった。3学期に外国語活動研修も実施した。
- ・英語科の公開授業が行われた。
- ・指標については上述の結果により、概ね達成できた。

取組内容⑥

- ・昨年度不登校であった児童も登校し、学習に参加できている。
- ・家庭での学習が難しい児童は、学校でしっかりと学習できるように取り組んだ。
- ・放課後自主学習への参加児童は継続して参加できていた。
- ・家庭学習材は継続して提供し、提出率は概ね目標に達している。
- ・全教員アンケート「授業中に困り感のある児童や自主学習の定着していない児童に放課後学習会への参加を継続的に促している」では4人の教員が否定的回答だった。
- ・自分なりの作品や学習成果を発表や交流できる機会は、「書くこと」を関連付けることも含め、目標通り設けることができた。

取組内容⑦

- ・体育実技研修を、2回実施した。
- ・体を動かすことが好きな児童が多いが、運動に苦手意識を持っている児童もいた。
- ・研修があり、児童への様々なアプローチを行うことができた。
- ・小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答は3年90.6%、4年55.3%、5年70.0%、6年82.1%となり、平均では74.5%で目標(70%以上)を達成することができた。

取組内容⑧

- ・ハンカチ、ティッシュ、つめなど、繰り返し声をかけたり連絡帳に書いたりすることで、健康チェックの時にはほぼ100%持ってくることができた。
- ・学校だよりも早寝早起きをするように啓発記事をのせた。
- ・保健指導・健康委員会を活用し睡眠の大切さを啓発してきたがポイントは低学年は1学期より6ポイントマイナス。高学年は10ポイントマイナスで向上しなかった。保護者との連携を継続しておこなう必要がある。
- ・睡眠がしっかりと取れているか確認の声かけをした。睡眠の大切さを理解することはできているが、保護者の帰りを待って寝る為に就寝時間が遅くなる児童もいた。
- ・睡眠不足の児童がよく見られた。

次年度への改善点

取組内容①

パソコンの持ち帰りの是非をクラス単位で考えていくことから始めなければいけない。学習面のメリットとしては、個に応じた宿題の提供ができる。反面、情報リテラシーに関する問題が2学期末に起きたことや、端末管理に関して保護者が責任を持つことができるかの問題を本校は抱えている。次年度1学期終了後にクラスの実態を基に検討してもよいかと考える。

取組内容②

学校全体として一人1授業でも、指導案や略案の書き方を統一していく。

取組内容③

読書量の確保はできたが、質の問題が残っている。読書量の面では、読書週間の開催を定期的に行うなどの委員会の取り組みの広がりを検討する。質の面では、国語科のⅢ次の授業改善が課題となる。

家庭学習の定着を図るために必要な家庭学習材を提供し、提出率を95%以上にする。の95%という数値が高く感じる。提出率を上げるために、より個に応じた課題をだせる環境づくりを検討する。

取組内容④

R6年度より3か年の理科専科教員の配置を生かし、引き続き実験・観察を豊富に取り入れ、考える理科授業の充実を図っていく。

取組内容⑤

モジュールや英語科学習を教員児童ともに積極的に行うことができている。それに加え、必ずや実施するためにも、モジュール学習の位置づけを明確化したい。

取組内容⑥

放課後学習の声掛けを継続していくことに加え、自主学習をする児童を増やすために保護者の協力・理解を得る必要がある。そのために、学級通信などに自主学習を掲載してもよいか検討したい。

取組内容⑧

睡眠時間を確保できるよう今後も年3回の強調週間の啓発活動、養護教諭による保健指導、児童による保健委員会の活動等を通して、早寝・早起きの重要性を学校全体で意識することができるよう取り組む。

従来のチェックカードでは、正しい情報を得ることが難しいため、児童及び保護者アンケートに項目を追加してもよいのではないか。

(様式2)

大阪市立大宮西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会当日など ICT 活用が適さない日を除く授業日において、8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を3年 50%以上、4年 70%以上、5年 90%以上、6年 95%とする。 <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆとりの日」を週に1回設定・実施し、順守する。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>ICT機器や一人一台端末を日常的に学習活動で活用するとともに、毎日の「心の天気」の活用や「相談機能」の積極的活用、教員も毎日PCを確認することなどの実践を通じて、すべての児童がコンピュータ等の活用スキルや情報リテラシーを向上させる。</p>	
<p>指標</p> <p>① 運動会当日など ICT 活用が適さない日を除く授業日において、8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を3年 50%以上、4年 70%以上、5年 90%以上、6年 95%とする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>会議・行事の精選やICT・アプリ等の効果的活用を進めるとともに、全教職員が校務分掌等の役割を適切に果たしていくことで、偏った長時間勤務の防止に努める。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8割以上が学習端末を使用した日は、1年生にも端末が配布された7月以降では、運動会・校外学習等の学校行事で活用に適さない日を含めても80%を超えており、高い活用率であった。目標は大幅に上回った。 ・小学校学力経年調査「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」の肯定的回答割合は、3年 96.9%、4年 89.5%、5年 90.5%、6年 94.9%となり、目標値の3年 50%以上、4年 70%以上、5年 90%以上、6年 95%に対し、6年が誤差レベルの0.1ポイント下回った以外は上回った。 <p>取組内容②</p> <p>週1回の「ゆとりの日」は学期中の全ての週で設定できた。設定日には、ほぼ全教職員が17時</p>

30分までの退勤時間順守を意識し、残務を切り上げて退勤していた。しかし、今年度はワークライフバランス支援員の未配置や、教員の欠員補充が滞った影響は大きく、全体の時間外勤務は昨年度に比べて増加している。

次年度への改善点

取組内容①

- ・こちらの天気の入力は定着してきた。今後は児童自身が心の状態を見つめ、落ち着いて学習に取り組めるように、こちらの天気を活用する手立てを考える。また、新しく導入されたアプリ等に対応するため、教職員のスキルアップとなる研修の充実をさせていく。
- ・児童が校内でルールを守って正しくICT機器を使えるようにするなど、メディアリテラシーの理解と定着をさせる必要がある。

取組内容②

- ・学校行事や校務分掌の精選をしていく等、一人ひとりのワークライフバランスを見直すことで、負担の軽減に努めてしていく。
- ・今後さらにICTを活用し、業務の効率化に努めていく。